



19Jミルク発第127号
2019年10月23日

農 林 水 産 大 臣
江 藤 拓 殿

一般社団法人Jミルク
会 長 川 村 和 夫



「わが国酪農乳業の将来戦略ビジョン（提言）」 の円滑かつ着実な推進に係る要請について

Jミルクでは、この度、わが国酪農乳業の将来世代に展望ある持続可能な産業を受け渡すことを目的に、「提言-力強く成長し信頼される持続可能な産業を目指して～わが国酪農乳業の展望ある未来に向けた戦略ビジョン～」を取りまとめました。

我々は、本提言の中で、わが国酪農乳業の将来のあるべき姿を実現するために、業界の戦略視点と協働行動、期待される政策的支援の方向性を明らかにしました。

今後、わが国の酪農と乳業は、この提言に示した業界自らの取り組みを連携して推進し、持続可能な日本酪農乳業を目指します。

ついては、農林水産省が検討している新たな『酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針』の策定並びに酪農乳業施策の推進にあたり、本提言の趣旨、戦略ビジョンの枠組み、酪農乳業としての行動計画や政策への要望について十分に配慮されるとともに、業界の取り組みの円滑かつ着実な実行に向け、特段の支援をお願い致します。

なお、本提言の主な要旨は下記の通りです。

記

1. 提言の位置付けについて

提言で示した取り組みは、わが国のミルクバリューチェーンに係る全ての関係者が、共通する視点を持ち自覚的に推進するものです。業界自らの取り組みが促進されるよう政策的な対応と支援をお願いします。

2. 戦略ビジョンの枠組みについて

(1) 業界が考慮すべき事業環境について

今後の酪農乳業産業の国内外の事業環境のなかで、特に次の点が

重要である。

- ① わが国酪農乳業の需給構造は不安定である
- ② わが国酪農乳業の規模拡大とコスト構造の脆弱性が強まっている
- ③ 牛乳乳製品消費の多様化が進んでいる
- ④ わが国の食品市場は新たな競争ステージへ突入している
- ⑤ 世界の牛乳乳製品需給は逼迫し不安定が見込まれる
- ⑥ 世界の食料問題は深刻化している
- ⑦ 食料生産における酪農の役割や消費者の要求は高まっている

(2) 「産業のあるべき姿」と戦略視点に基づく協働行動について

今後の酪農乳業の事業環境を踏まえた場合、持続可能な発展のためには、「成長性」、「強靭性」、「社会性」の3つの共通の戦略視点に沿った対応が必要であり、これらの戦略視点に基づき、次のような取り組みが重要である。

- ① 成長を続ける（「成長性」）ための取り組み
 - ・ 国内酪農の生産基盤の強化
 - ・ 牛乳乳製品の市場規模の拡大
 - ・ 乳の価値の向上や可能性を拡大
- ② 強靭な産業になる（「強靭性」）ための取り組み
 - ・ 予期せぬ経済変動や自然災害への対応力の強化
 - ・ 変化に強い酪農経営構造の構築
 - ・ グローバル化に対応した競争力の強化
- ③ 社会の要求に応える（「社会性」）ための取り組み
 - ・ 酪農乳業が持つ多面的機能の一層の活用
 - ・ 酪農乳業の持続可能性を発展させるための改善・強化

(3) 酪農乳業の将来に向けた事業展開の努力目標について

国民健康に貢献する酪農乳業の社会的責任、牛乳乳製品の国内自給率の向上、将来世代へ安心感を与え意欲を喚起するための業界の意思表示として、10年後（2030年度）において確保されることが期待される国産原料乳の目安として、全国で775万～800万トンを生乳生産の数量目標とするので、新たな酪肉近の生産目標数量において、この目標を尊重して頂きたい。

以上